

# KOMENOYAMA hospital Doctors Voice

2026  
Vol. 1

米の山病院 院長

崎山 博司

Profile .....

1987年に九州大学医学部医学学科を卒業後、研修医として親仁会に入職。

2016年に院長に就任後、現在内科専門研修プログラムの責任者として研修医はもちろん専攻医への指導も積極的におこなっている。



## フレキシブルな医療と 「高齢者にやさしい病院」を 目指して。

### 医師を目指したきっかけは何ですか？

もともと人と関わるのが得意ではなかったのですが、生き物が好きだったこともあり、医学研究をしようと思って大学に進学しました。大学で医療系のサークルに入ったことがきっかけで、医師として臨床もやっていけそうだと思い、医師になることを決めました。

### 診療科目を教えてください

循環器内科と腎臓内科ですね。主に透析です。糸球体腎炎という免疫系の病気に関心があり、ちゃんと勉強してみたいと思い選びました。

### めざす医師像を教えてください

「高齢者に優しい病院」を目指したいと思い、10年ほど前に院長として方針を掲げました。大牟田市をはじめ筑後地区全体で高齢者が増えているなかで、高齢者の状況にあった医療に取り組む必要があると考えました。

例えば、医師として手術が必要だと思う局面でも、患者さんによっては手術を選択できなかったり、かといってこのままでは家で暮らし続けることもできないという状況があります。患者さんの状況に合わせたケース・バイ・ケースの医療が日々求められているため、それに対応できる医療機関でありたいと思っています。

### 若いころからそう思っていたのですか？

若いときは、きちんと診断して、きちんと治療したいと思っていました。その気持ちは今もありますが、日々接する患者さんたちを診ているとそう言ってもらえないところもある。本当にフレキシブルな対応が求められるのです。でも、こう思えるのも歳をとったからかもしれません。

### フレキシブルな医療が求められるのは今の社会背景も影響しているのでしょうか

そうですね。インターネットやSNSの関係もあると思いますが、一人ひとりの患者さんやそのご家族は多くの情報に接していて、

いろいろな考えを持っています。以前は、医療的な判断は医師くらいしかできませんでしたが、今は患者さんやご家族が自分たちなりの見極めをしている。

医師としてはあまり賛成できない場合でも、患者さんやご家族の希望があれば、それを考慮する必要があります。

### 普段の診察ではどのようなことに気をつけていますか？

患者さんに寄り添うことです。患者さんの意思を確認するために、看護師や薬剤師、栄養士などさまざまな職種と連携しています。医師には言いづらくても、看護師には本音を漏らしてくれることもありますから。上手くいかないこともありました。これまで経験したことが今の医療の糧になっています。

### 休日は何をしていますか？

登山が趣味で、月1回ぐらいは登っています。「登れるかな」と不安を感じながら登って、無事に下山できると達成感がありますね。

